



熊事研会報

第 127 号

熊本県学校事務研究協議会
発行人 会長 上田 千浩
編集代表 研究部長 平野 哲也

～目次～

- 平成 30 年度全事研大会千葉大会参加報告
- この春、行政部局に異動した元・熊事研会員より
- 平成 30 年度事務局・研究部 新入部員紹介

平成 30 年度全事研大会千葉大会参加報告

「第 50 回 全事研千葉大会に参加して」

菊陽町立菊陽中部小学校 山下 久美

大会テーマ「学校組織開発とマネジメント力の向上」～一人の力を組織の力へ すべては子どもたちのために～ を掲げた記念すべき 50 周年記念大会。私自身、平成 27 年の熊本大会を除けば平成 21 年の福岡大会ぶりの参加です。どんな学び・出会いがあるのか期待感で胸をいっぱいにしてしながら出発しました。

1 日目、開会式での森田健作知事の熱血なご挨拶を受け、午前中の目玉である文科省の行政説明へと進みます。1「学校における働き方改革の推進」2「学校と地域の連携・協働の推進」3「Society 5.0 における学びの在り方」4「事務職員へ期待されること」等盛り沢山の内容でしたが、予定どおりの時間内でテンポ良く話され、国としての今後の方針と今の自分の状況との比較ができ、今後の方向性を探ることができました。

2 日目、「新しい学校事務の機能を探る ～変わる学校・変わる事務職員 4D 学校組織図からみえてきたもの～」のテーマの下「学校組織開発の在り方と新たな組織文化の創造、戦略的な協働を生み出す共同学校事務室と事務職員の役割」を討議の柱に第 4 分科会滋賀支部の分科会が進められました。ICT を駆使した会場設営にまず驚かされました。ステージ上のスクリーンには提案者と会場の参加者の様子が並べて投影されています。またタブレットを持った会場係がワークショップで参加者が書いた内容を読み取り、瞬時にスクリーンに送ります。さらに各自が随時スマートフォンから自分の意見や感想を投稿でき、定期的にスクリーンで紹介され・・・と、このような会場一体参加型の取組に今後の会議、授業の在り方がこうなるのではと垣間見ることができ、とても新鮮でした。学校の校務分掌の機能面についての考察では、業務が細分化され個別の動きになっている現状から学校教育目標から垂直に降ろされた、各専門部会・指導部門・地域・それを支える管理職等の経営部門の一連型の串差しの組織図、またその活動に密着して寄り添う学校予算、と 4D の学校組織図の提案は圧巻でした。自校の校務分掌表と比較し、こう変革するといいいのでは・・・と思い描きながら積極的に参加することができ大変参考になりました。

次に学校運営サポートの取組を紹介された東近江市の事例発表では、事務センターや自校で活用可能な内容も多くあり、全国大会ならではの醍醐味を感じました。

この 10 年、なかなか全国大会への参加に踏み出せなかった私ですが、今回参加して、あまりの収穫の多さに「今までもったいなかった！」と感じています。来年も続けて滋賀事研の発表が岡山大会で行われるとのことでまた参加したいと思っています。

全国大会への参加を迷っておられる方、とりあえず行ってみましょう。自分が磨けます。

「50周年記念全国公立小中学校事務研究大会（千葉大会）に参加して」

人吉市立第二中学校 山口 翔吾

1 はじめに

平成30年8月1日から3日にかけて全国公立小中学校事務研究大会（千葉大会）に参加してまいりました。定員4,000名の会場を埋め尽くすほどの参加者と錚錚たる御来賓の方々のもと、盛大に本大会は開催されました。ここで経験したことの要点を抜粋し、少しでも多く熊事研会員の皆様へお伝えできればと思います。つたない文章ではありますが最後までお読みいただくと幸いです。

2 大会テーマ及び目的

第8次研究中期計画の最終年次に当たる千葉大会は、「学校組織開発」を軸に、より良い学校づくりの具現化に向けた研究を通して、「子どもの豊かな育ちを支える学校事務」を追求し、その実現を目指すというねらいで開催されました。

御存知の方も多いとは思いますが、平成27年12月21日中央教育審議会から「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」の答申が出され、これからの学校が複雑化・多様化した課題を解決するためには、「学校の組織としての在り方や、学校の組織文化に基づく業務の在り方などを見直し、『チームとしての学校』を作り上げていくことが大切である」と述べられています。学校組織の在り方について様々な改革が進められてきていますが、学校は組織として協働することに対する意識がまだ十分ではないように思われます。すなわち、個業型組織から協働型組織への意識の転換が必要なのです。

このことから、今大会は、第8次研究中期計画の総括として、（1）学校組織の在り方とリーダーシップ（2）学校のマネジメント力の向上と事務職員・共同学校事務室の役割、の2つの課題を整理し、学校組織開発における事務職員の役割、キャリア形成・能力開発、共同学校事務室の在り方や役割について考えられていました。

3 大会1日目（8/1）

（1）文部科学省行政説明 文部科学省 審議官 下間 康行 様

- ①学校における働き方改革の推進について
- ②学校と地域の連携・協働の推進について
- ③学校安全の推進等について
- ④Society5.0における学びの在り方について
- ⑤デジタル教科書とICT環境の整備について

上記5点について行政説明が行われた後、最後にこれからの事務職員に期待することに対する説明がありました。ここでは、これからの事務職員に期待することについて報告します。

平成29年4月学校教育法の一部改正により「事務職員は、事務に従事する。」から「事務職員は、事務をつかさどる。」へと変わりました。今回の改正は、校長、教諭、事務職員等それぞれが学校マネジメントの役割を果たすことが明確化された改正です。学校組織マネジメントの中核となる校長、教頭等の負担が増加するなかで、学校におけるマネジメント機能を十分に発揮できるようにするため、学校組織における唯一の総務・財務等に通じる専門職である事務員の職務を見直すことにより、管理職や他の教職員との適切な業務の連携・分担の下、その専門性を生かして学校の事務を一定の責任をもって自己の担当事項として処理することとし、より主体的・積極的に校務運営に参画することを目指す、というものです。

この先の事務職員は副校長・教頭とともに業務改善をはじめとする校務運営に参画し、校長を経営面から補佐し、支えていく必要があります。学校における働き方改革においても、学校全体を見渡せるという強みを生かした事務職員の活躍が期待されています。下間審議官からのメッセージとして、「なかなかそういう風に言われてもという気持ちは分かりますが、志を高く、事務職員がしっかりと学校運営に参画すれば、校長も助かるし学校もよくなるという気持ちを強く持って取り組んでいただきたい。地域とともにある学校づくりを進めるために欠かせない戦力として事務職員の皆様に大いに力を発揮していただきたい。また、校務運営に関する参画についてはなかなかしんどいことではあると思いますが、国としても管理職の意識を変えていきたいと思っているので、主体的積極的な校務運営への参画を期待しています。」とのお言葉をいただきました。今回の行政説明を聞いて、「従事する」から「つかさどる」へ変わった意味が以前よりも自分のなかへ意識として刻まれた、そんな感覚がしました。

(2) 全体研究会Ⅰ 基調報告

全体研究会Ⅰでは第8次研究中期計画の実施報告とこれまでの研究のあゆみ等について説明があり、第3期学校事務のグランドデザインの策定報告がありました。ミッションに「子どもの豊かな育ちを支援する」を掲げ、ビジョンとして「目指す子ども像実現のため学びの場を協創する」を示されています。「協創」とは学校・家庭・地域など子どもにかかわる多様な主体の協働により創り上げることと、付記してあります。このグランドデザインは、今後私たちが同じ方向へ向かい、意識を高く持ち取り組んでいくための指針となりますので、皆様も是非一度詳しい内容をご確認ください。また、熊本版グランドデザインと比較してみても、新たな発見があるかもしれません。第3期学校事務のグランドデザインは、全国公立小中学校事務職員研究会の会員ページにあります。

(3) 記念講演 スポーツ庁長官 鈴木 大地 様

1日目の最後に、スポーツ庁長官の鈴木様の御講演がありました。スポーツ庁のスポーツ基本計画において、成人の65%の人が週一スポーツを実施する国を目標としているそうです。その理由として、現在我が国の医療費に充てられている予算は42兆円であり国家予算の半分近くになっており、これをスポーツで減らせないかというお考えからです。ある調査では運動嫌いの人は体育嫌いだったという結果が出ており、これからの体育授業は技術指導に偏らず、体を動かす「楽しさ」を知り、運動の効果を知ることで、生涯スポーツの礎を築くことが大事になるというお話でした。また、部活動に関するガイドラインの策定も行われているそうです。スポーツ庁の取組は教育関連とも深いかわりがありました。

4 大会2日目(8/2) 第2分科会(東海地区プロジェクトチーム)

第2分科会テーマ 「チーム学校」の実現に向けた「協働」の創生

— 「チーム東海」、想いをひとつに！次代につなぐ組織的な学校事務の展開に向けて—

第2分科会では上記のテーマのもと、学校や共同実施組織における「協働」の創生に注目して、「組織開発」という視点から研究発表が行われました。いかにして「協働」を生み出し、「チーム学校」を実現させるか、実践事例を踏まえつつ参加者と発表者で共に考える会になりました。

「チーム学校」の実現に向けて、事務職員が組織的に学校のマネジメント力を強化していくため、組織開発の手法である(1)「創造的な対話の場(オフサイト・ミーティング)の設定」と(2)「チーム・ビルディング」に着目し、学校や共同実施組織における「協働」の創生について提案されました。

(1)「創造的な対話の場（オフサイト・ミーティングの設定）」について

学校は従来の教員の割合が極端に多く同質性の高い組織から、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、ICT支援員、学校司書、ALT、部活動指導員、特別支援教育支援員、看護師などの様々な職種が、個々の専門性を生かしながら、それぞれに合った働き方をする、多様性が高い組織へ変化していくことが予想されます。多様性が高く、様々な雇用形態の職員で構成されている職場を「モザイク職場」と呼びます。この「モザイク職場」では、雇用契約の違い、役割や仕事の境界に関する意識の違い、帰属意識の違いなど、様々な違いが生まれます。そして、これらの違いを意識することにより、遠慮や行き違いが生まれやすくなり、職種間の葛藤を生むと言われていました。また、組織開発論では、仕事の専門化と分業化は協働を阻害する要因になり得るといわれています。仕事の専門性が高まるにつれ、担当者でないと理解しづらい仕事が増えまた、分業化も個人の職務と責任の範囲を決めて仕事を行うことから、どちらも積極的に協働しづらい状況を生む要因を内包しています。

これら協働を阻害する要因に抗うために、オフサイトミーティングという創造的な対話の場の設定にヒントがあると東海プロジェクトチームは考えました。オフサイトミーティングとは直訳すると「現場と離れた場所で、行われる会議」という意味で、立場や役職にとらわれない、無理に結論を出すことをしない、お互いの話を聴き合うなど、「気軽」に「まじめ」な話をするという特徴のある会議のもちかたです。ここでは、「信頼関係に基づく対話から問題を発見し、知恵を生み出す話し合いの場」という定義を採用し、「創造的な対話の場」と呼ぶことと設定されました。

事務職員も、「創造的な対話の場」へ積極的に参加し、発言・提案し、教員や様々な専門スタッフと想いや考えを共有しながら、共に現状や実態を認識し、課題を発見・共有し、解決策や実効策を立案・実践していくことが、学校現場を活性化し、協働を促進することにつながると考えます。それだけではなく、学校内外の多くの情報に触れることができる立場を生かし、課題や改善点、教職員の意識や想いの変化などを敏感に察知し、その時々に応じた議題と議題に応じた参加者の選定から議論の方法の工夫、当日のファシリテーションや議論のまとめなどを行い、「創造的な対話の場」を作り上げることも事務職員の重要な役割の一つになり得ると考えます。

午後は「創造的な対話の場」を体験するための参加者同士での話し合いの場がもたれました。話し合いの内容、様子、やり方について助言者の南山大学人文学部心理人間学科准教授の池田満様からご指導をいただきながら行われ、他県の話聴きながら会議のやり方についても学ぶことのできるとても有意義な時間でした。

(2)「チーム・ビルディング」について

「チーム・ビルディング」とはその名のとおりに「チーム」を「築く」ための手法の一つです。ここで言うチームとは「共通の目標をもった」「多様なメンバー」から成る集合体のことを指します。「チーム・ビルディング」はチームのコンテンツ（成果物や作業内容）ではなく、プロセス（メンバー同士の関係性）に働きかけることで、チームの創り出す成果を個々の力を合わせた以上のものにするを目的として行うものです。

実践例として静岡県富士宮市の共同実施例が紹介されました。富士宮市は「ブロック・グループ制」を導入し、地区をいくつかのブロックに区分けし、ブロックの責任者としてブロック長をおき、更にブロック内を複数のグループに分けグループ長をおいています。また、ブロックの統括者として地域事務長がおかれています。共同実施とはいいませんが、熊本県でいう事務センターと似た仕組みでした。事務センターをイメージすると東海プロジェクトチームの提案する「チーム・ビルディング」について、なんとなくつかめると思います。

5 大会3日目(8/3)最終日 大会報告及び全体研究会Ⅱ

大会報告では各分科会代表者より2日目の様子の報告がありました。どの分科会も充実した討議が行われたようで、各報告者の顔は達成感と充実感で溢れているように思えました。

全体研究会Ⅱでは3人のパネリストによる活発なディスカッションが繰り広げられました。なかでも、千葉県香取市教育委員会教育長 栗井 明彦 様のお話が印象に残っています。

千葉県香取市は教頭先生と事務職員がともに研修を行い、協議をする場が年に1度設けられているそうです。教頭先生及び事務職員の意識共有及び課題を改めて認識し、各学校の事情を把握しつつ水平展開が図られるようにとの目的での取組ということでした。また、事務をつかさどるに法改正されたことに伴い、事務職員は主体性を第一にという思い入れをもって取り組むことが大切だと思われるそうです。

昔、3人のレンガ職人がいて、通りがかった旅人が「何をしているのか」と聞いたら1人は「レンガを積んでいる」もう1人は「壁を作っている」さらにもう1人は「神を称えるための大聖堂を作っている」と応えたそうです。どの職人が一番理念を持って理想の壁を作ろうとしているかは言うまでもありません。「つかさどるといのは単にレンガを積み上げるのではないということだけ申し上げたい」との熱い言葉をいただきました。

6 おわりに

今回、全国公立小中学校事務研究大会に参加し、得たものはかなり大きかったと思います。夜の懇親会にも参加させていただきましたが、熊本県をはじめ他県の先生方からたくさんのお話をいただき、研究大会では聞くことのできない、先輩方の熱いエピソードや他県同士での繋がりなどを知ることができました。50周年記念大会に参加でき、本当に良かったと思います。

報告内容では触れませんでした。この先の未来 Society 5.0 で実現する社会、つまりAI技術の発達により事務作業等の定型的業務や数値的に表現可能な業務はAIによる代替が可能になった社会において、私たち事務職員は「業務が減って楽になる」や、「定員数が減る」とかではなく、これを好機と捉え、管理職とともに校務運営の主体となる存在にならなければならないと考えます。その動きがもう既に始まっている今、私たちは意識を高くもって進んでいかなければと感じた3日間でした。

最後になりましたが、今回貴重な経験をさせていただき誠に感謝いたします。現場に還元できるようこれから先、チーム事務職員、チーム学校、チーム熊本県で励んでいきたいと思っております。



次年度全事研大会開催地は・・・桃太郎伝説の生まれた町「岡山」で行われます。

2019年8月8日(木)・9日(金)開催!

第9次研究中期計画の初年次に当たる岡山大会では、「ビジョンと戦略」を軸に、より良い学校づくりの具現化に向けた理論研究・実践研究等が発表される予定です。ミッションである「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」を追求し、教育の質や効果を高めることを目指されます。

ぜひ、来年度は行かれてみませんか?

現状より一歩前へ踏み出すために! このままじゃいけないと思っているあなた!

皆様の参加をお待ちしております。お近くの研究部員または理事さんまでご相談ください!



この春、行政部局に異動した元・熊事研会員より

前回の会報で、今年度、新規採用や異動等により熊事研の新会員となられた先生方に自己紹介をしていただきましたが、今回は、平成30年4月1日の人事異動により、行政部局に異動された元・熊事研会員の先生方に、行政部局の業務内容や学校現場との違いを、ご自身の近況等を交えながら紹介していただきました。（先方の業務の都合等もあり、依頼できなかった先生もおられます。その方たちの分はお載せしておりませんのでご了承ください。）

※Q&A方式でお答えいただきました。今後、県庁へのお出張や、各教育事務所でのお会いされた時は、皆様、是非お声かけください。

- ①現所属と氏名（ふりがな） ②前任校 ③現在担当している業務
④前の職場との一番の違い（ギャップ）は？ ⑤最後に一言どうぞ！

①熊本県教育庁教育総務局学校人事課 学校事務支援班
坂梨 俊輔（さかなし しゅんすけ）

②山鹿市立鹿本中学校

- ③・事務職員への研修に関すること
・旅費の支払いに関すること
・児童手当に関すること、等

④業務の規模の大きさです。担当業務においては、自分の処理や発言が県教委の見解となる場面もあるため、根拠を明確にし、自分の考えとともに客観的な視点を持つことを心掛けています。また、行政における仕事の進め方も、学校現場と異なる場面があります。

（一番は、職場に子どもたちがいないことです、..）

⑤異動して4ヵ月ほど経ちましたが、勉強の日々です。私たちの仕事は、どこで勤務していても、全ては「児童・生徒のため」だと考えています。

私は採用から、県立学校・市町村立学校・県教育委員会での勤務を経験させていただきました。全ての勤務地において、生徒（児童）・職員をはじめ、地域の方々などさまざまな方との出会いがあり、その方々のおかげで今もこの仕事を続けることができていると感じています。

人との出会いを楽しみながら、これからもがんばっていきたいと思います。

①熊本県教育庁教育指導局 高校教育課 総務係
川上 志緒里（かわかみ しおり）です！

②菊陽町立菊陽中部小学校でした。（日本一の菊陽町学校事務センター！！）

- ③・高校教育課の経理・監査・庶務
・要保護・特別支援就学奨励補助金
・教科書給与・教材費（義務教育課・特別支援教育課兼務のため）

④・すべてがシステム化しているところ！

（庶務事務システムや文書管理システム、総合財務会計システムなどなど、義務制では聞きなれないものばかりでした）

・駐車場がない、.....（学校のありがたみを感じています）

⑤学校とは、また一味違ったものを求められる場です。毎日綱渡り状態で頭を抱えることもたくさんですが、初めての異動をとおして精神的にも鍛われました♥仕事内容はがらりと変わっても、大好きな教育に携われる幸せは変わりません。今後とも、どうぞよろしくお願いたします

①菊池教育事務所

鶴山 孔士（つるやま ことし）

②阿蘇市立山田小学校

③・臨採の給与関係業務

・教育事務所の消耗品関係業務

・SSW、SC、学校支援 AD の報酬等支払業務等です。

④システム全般です。前任校と違い、メールのシステムから全てにおいて違うので、操作に慣れるまでに時間がかかりました。

⑤まだまだ分からないことだけで、大変ですが学校現場では経験できないことをたくさん学ばせていただいています。

事務所の先生方と支え合いながら、これからの業務に励んでいきたいと思います。

①上益城教育事務所

西岡 秀将（にしおか ひでまさ）

②長洲町立清里小学校

③総務、文書、会計

④子どもたちとかかわりがいいこと

⑤学校から行政に異動し、次から次へ押し寄せる業務に日々勉強の毎日です。

異動前は不安もありましたが、自分のような未熟者でも周りから支えられながら、何とか今日まで乗り切ることができました。

業務は大変ですが、その分やりがいを感じられる職場です。皆様と一緒に働くことができる日を楽しみにしております。

①宇城教育事務所

森本 健介（もりもと けんすけ）

②天草市立有明中学校

③文書管理や教育事務所職員の服務に関すること、事務所関係予算の執行に関すること及び非常勤講師等の通勤旅費の決定に関すること等を担当しています。

④「文書管理システム」や「庶務事務システム」など、熊本県が使用している諸システムを使って業務を行うことに大きなギャップを感じています。前任校で扱っていたシステム（旅費事務システム等）は、今の職場では全く使いません。

また、関係機関へ文書等を発出する際は、システム上で起案を行い、教育事務所内で決裁を受ける必要があり、タイミングが悪いと決裁だけでかなりの時間を要してしまうこともあります。システム操作に慣れていない4月当初から、数多くの報告があるので、年度始めに自分が何をしていたか、正直あまり記憶がありません・・・。

⑤学校にお勤めの先生方はもちろんですが、教育事務所職員も全員、「子どもたちのために」という熱い気持ちをもって働いています。そのような方々と、雑談なども交えながら同じ職場で仕事ができるということは、私にとって大変刺激的で、今の職場でのやりがいにもつながっています。

教育事務所からは、子どもたちの成長していく姿を直接見ることはなかなかできませんが、ここでの日々の業務が教育現場の子どもたちにプラスになって還元されていると信じています。今まで仕事等でお世話になった先生方への感謝を忘れずに、これからも日々業務に励みます！

①球磨教育事務所

平野 将伍（ひらの しょうご）

②山鹿市立米野岳中学校

③・公文書・公印等の文書事務、情報公開に関すること

- ・市町村教育委員会の人事に係ること
- ・所員の服務動静に関すること
- ・予算の総括に関すること（非常勤職員、臨時的任用教職員）
- ・リース物品の管理に関すること
- ・叙位叙勲、教育功労表彰等の表彰に係る進達、調査に関すること
- ・公立学校共済組合に関すること ・県職員互助会に関すること 等

④自分の業務が明確なこと。所員各々の立場・役割で仕事に取り組んでいるのを学校現場にいたとき以上にはっきりと感じています。

⑤この4カ月を過ごしてみて、業務量が多いのは言うまでもありませんが、責任が重い分、やり遂げた後はとても気持ちの良いものです。今後どこに異動したとしても、新たな職場でこれまで知らなかった仕事を経験でき、新たに出会った上司や先輩にアドバイスをいただくことができるのはとても良い経験だと感じています。

毎日が勉強のなかで、その積み重ねが自信につながり、また次の業務に謙虚さをもって取り組むことで学ぶことが数多くあります。毎日が新鮮で、時間が過ぎるのを早く感じるくらいです。これからも様々な業務が待っていますが、自分の仕事に誇りをもって、熊本県の教育のために精一杯頑張っていきたいと思っています。

平成 30 年度事務局・研究部 新入部員紹介

平成 30 年度熊事研事務局・研究部に計 7 名の新入部員が入りました。前項同様、Q & A 方式による自己紹介です。これから一年間、よろしくお願ひします。

①現役職と氏名（ふりがな） ②現所属校 ③現在、事務局員・研究部員として担当している業務 ④最後に一言、意気込みを！

- ① 事務局 坂本 幸陽（さかもと こうよう）
- ② 益城町立飯野小学校
- ③ 会計（県大会会計 全事研会計）
- ④ 右も左もわかりませんが、せいいっぱい頑張りたいと思います！

- ① 事務局 白柿 郁美（しらかき いくみ）
- ② 宇城市立松橋中学校
- ③ 熊事研の一般会計を担当しています。
- ④ 初めて事務局員になりました。たくさんの計画と打ち合わせを重ねたうえで大会運営をされていることを、改めて実感しております。不慣れな点が多く、毎回周りの方々に助けて頂くばかりですが、頑張りたいと思います。3年間よろしくお願ひします。

- ① 研究部 研修班 渡邊 賢臣（わたなべ けんしん）
- ② 菊陽町立菊陽西小学校
- ③ 研究部の研修班に所属し、平成 30 年 1 月開催予定の熊事研大会分科会の研修内容の検討及び、分科会スケジュールの作成に励んでいます。
- ④ 「いつも笑顔で元気よく、そして爽やかに」をモットーに、研究部員として、会員のニーズに応えられるような研修を行うため精一杯尽力していきたいと思っております！！

- ① 研究部 研究班 川端 亨（かわばた とおる）
- ② 宇城市立小川中学校
- ③ 研究部の研究班に所属し、熊事研 1 月大会の発表準備及び熊本版グランドデザインの研究をしています
- ④ 初めての研究部でわからないことばかりです。昨年、熊本版グランドデザインをいただきましたが、大変な苦勞のなかに作られたということ、研究班に来て知りました。さらに良いものとなっていくよう頑張ります。

- ① 研究部 研修班 松江 和人（まつえ かずと）
- ② 八代市立泉小学校（泉中学校、泉第八小学校兼務）
- ③ 研究部の研修班に所属し、熊事研大会 1 月大会の第 1 分科会の内容や構成 e t c …。
- ④ 楽しみながら精一杯頑張りたいと思っております！よろしくお願ひします！

- ① 研究部 情報調査班 平松 幸大（ひらまつ こうた）
- ② 玉名市立玉陵中学校
- ③ 研究部の情報調査班に所属し、熊事研会報の作成や全事研調査、学校事務必携の編纂、熊事研大会アンケート集計等、様々な業務を担当しています。
- ④ 毎年いつも聞く側として参加していた熊事研大会に、企画・運営する側として参加させていただくこととなりました。機会をいただけたことに感謝して頑張ります。一年間よろしくお願ひします。

- ① 研究部 研究班 才所 史佳（さいしょ ふみか）
- ② 熊本市立田迎西小学校
- ③ 研究部の中の研究班に所属して活動させていただいています。熊本版グランドデザインに関する研究などを行っています。
- ④ 日々勉強中の身ですが、少しでも皆様のお役に立てるよう尽力いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

お知らせ

第 43 回熊本県学校事務研究大会について

下記のとおり開催予定です。正式な開催案内等は、後日通知いたします。

期日 平成 31 年 1 月 11 日（金）

場所 くまもと森都心プラザ

内容 午前の部 研究部より熊本版グランドデザインの提案、講師をお招きして講演予定です。
午後の部 キャリア別分科会（内容は現在、検討中です。）